

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 16日は、低気圧がサハリン付近に留まる。高気圧が日本海へ移動する。
- 17日は、高気圧が北日本付近へ移動する。
- 18日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が日本海から東シナ海へのびる。
- 19日は、前線が南下しながら本州付近を通過する。
- 20日は、前線が本州南岸に留まる。高気圧が黄海付近へ移動する。

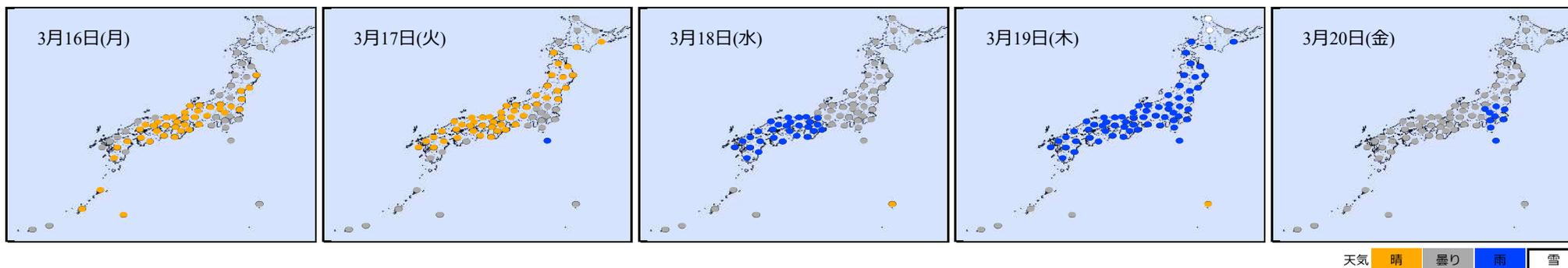
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

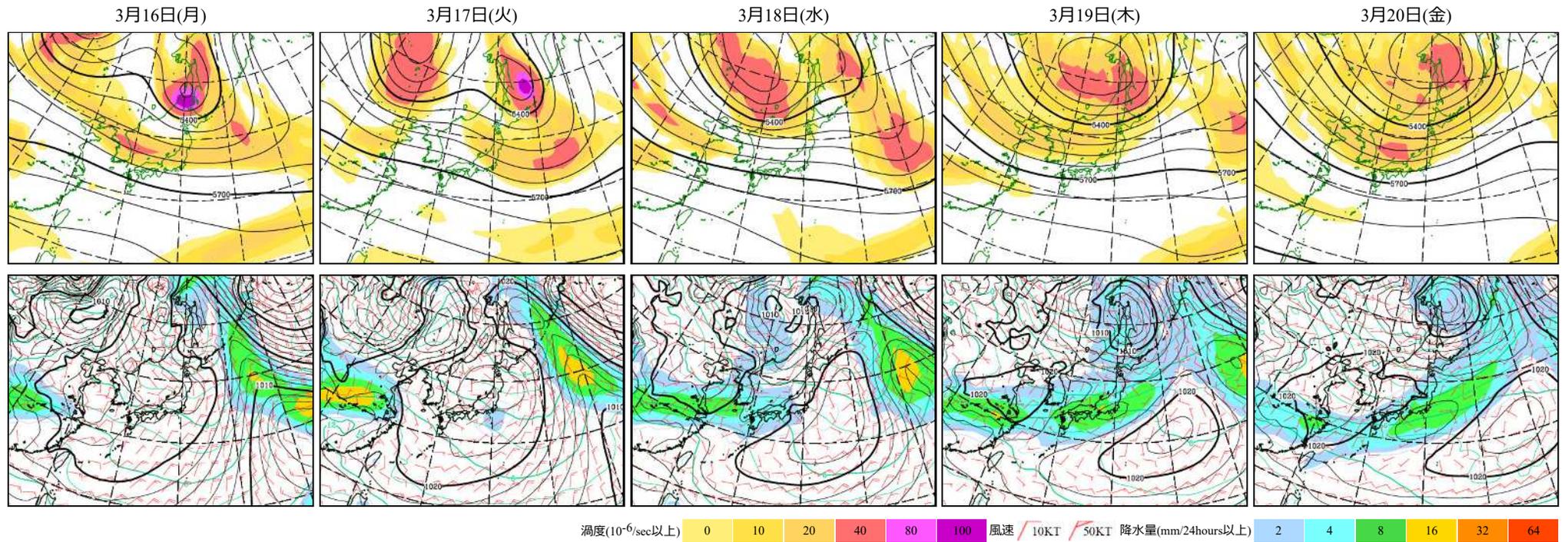
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

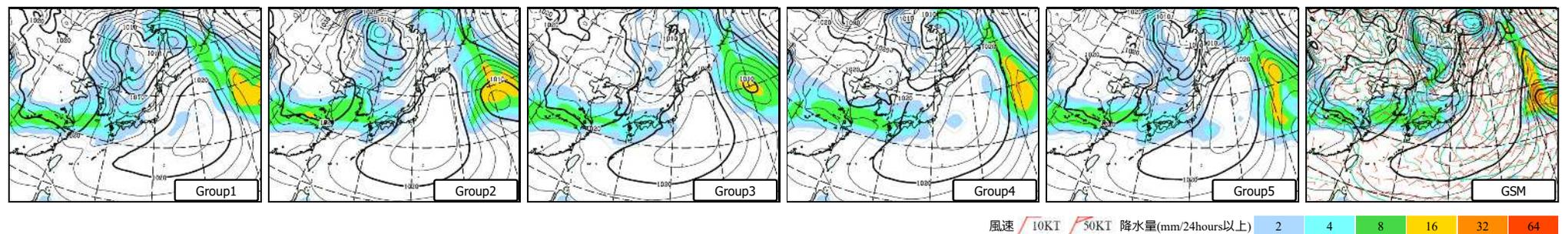


- 北日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、19日は雨または雪の降る所が多い。
- 東日本と西日本は、16日と17日は晴れまたは曇りの所が多い。18日以降は曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、16日は晴れる所が多く、17日以降は雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月18日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日から18日は日本付近を通過する高気圧の移動が早まり、18日は前線が日本海西部へのびる予想となった。このため、18日は西日本中心に降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、19日は前線が本州付近を通過する予想となった。前線の東進のタイミングはモデル間の差がみられるが、昨日資料より揃ってきた。
- スプレッドは、期間の後半はやや大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。